



さわやかさを未来へ

**Hokuriku
Coca-Cola**
Bottling Co.,Ltd

Sustainability Report 2022

Hokuriku Coca-Cola Bottling Co.,Ltd.



さわやかさをつなぎつづけて 60 年、未来へ向けて

INDEX

- 02 経営理念とビジョン
- 03 トップメッセージ
- 04 北陸コカ・コーラグループ事業概要
- 05 日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティ
- 06 2021年 サステナビリティ活動のサマリー
- 07-08 ■ 多様性の尊重
- 09-12 ■ 地域社会
- 13-16 ■ 資源「容器の2030年ビジョン」
- 17-18 北陸コカ・コーラプロダクツ(株) 砺波工場
- 19 製品ポートフォリオ
- 20 60年のあゆみ

【編集方針】

本レポートは、日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティに対する考えを示し、またそれに基づく具体的な当社グループの活動内容や取り組みをわかりやすく紹介し、みなさまからのご意見をいただき、持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

【対象期間】

2021年1月1日～2021年12月31日 ※活動内容の一部は2020年・2022年も含まれます

経営理念

私達は、リフレッシュメントの提供を通じて社会に大きな価値を提供し続けます。

経営ビジョン

- 働く喜びが実現でき、元気ある企業を目指します。
- それぞれが自立し、純粋に価値創造を追求し、常に進化発展し続けます。
- 消費者、顧客、地域社会に愛され、信頼され、身近で魅力あふれる企業を目指します。

社訓

創意 ... アイディア

奉仕 ... サービス

勇気 ... ファイト

大切にしている3つのもの

① 仕事を通じて社会に提供している価値

- リフレッシュメントの質と量を高めていく

② お客様

- お客様に楽しんでいただく、喜んでいただくこと

③ 仲間

- 製品に携わる全ての仲間を大切にする

TOP MESSAGE

社会の変化に対応しながら、本質を追求し、さわやかさをつなぐ企業であり続けます

当社は1962年に前身である北陸飲料株式会社を富山県砺波市で創業して以来、ふるさとの豊かな水の恩恵を受け、清涼飲料の製造・販売を行ってきました。おかげ様で今年創業60周年を迎えました。

私たちはこの豊かな水がなければ事業活動が継続できないということを認識し、感謝の気持ちと責任をもって資源を次世代につなぐ役割があると考えています。そこで当社は庄川水系の環境保全を目的として2005年より南砺市で植林活動「うるおいの森づくり」を毎年行っており、活動は今年で18年目となりました。さらに今年、創業地である砺波市、植林活動で協同している南砺市とSDGsに関する包括連携協定を締結しました。

これまでも様々な自治体や団体様と協同して参りましたが、地域社会が抱える課題をともに解決するため、私たちが60年間育んできた地域のネットワークを最大限活用し、さらに進化した地域と地域、企業と企業をつなぐ存在になりたいと考えています。

今、世界では、地球規模での環境問題やパンデミック、複雑な社会課題が人々の暮らしにますます大きな影響を与えており、サステナビリティの実現が喫緊の課題となっています。その中で一昨年から続く新型コロナウイルス感染症は、当社の事業活動に大きなマイナスインパクトを与えました。しかし、目の前の数字やメリットを追い求めるだけでは、持続可能であるとは言えません。

今、人類全体にとって「分断と対立」を選択するか「共感と共助」に向かうのか重要な分岐点になっていると思います。

本年は「つなぐ」をテーマに、事業活動を通してサステナブル社会の構築を目指しつつ、グループ内はもとより、地域社会全体に対しても「共感と共助」をさらに育めるよう取り組んで参ります。そして、持続可能な未来につなげるよう、積極的な展開を推進して参ります。



北陸コカ・コーラボトリング株式会社
代表取締役会長
稲垣 晴彦



北陸コカ・コーラボトリング株式会社
代表取締役社長
井辻 秀剛

北陸コカ・コーラグループ事業概要

地域に根ざしたリフレッシュメント創造企業を目指し、富山、石川、福井、長野県の皆さまに“さわやかさ”をお届けしています。

商号 / 北陸コカ・コーラボトリング株式会社
HOKURIKU COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.

本社所在地 / 〒933-0397 富山県高岡市内島 3550 番地

会社設立日 / 1962年(昭和37年)6月5日

資本金 / 7億3,283万6,500円

売上高 / 402億8,100万円(2021年実績)

代表者 / 代表取締役会長 稲垣 晴彦
代表取締役社長 井辻 秀剛

従業員数 / 247名(2022年7月現在 正社員のみ)

事業内容 / 清涼飲料の販売

グループ会社 / 株式会社ベネフレックス

北陸コカ・コーラプロダクツ株式会社
株式会社なぶーる



【協力会社 (GRN グループ8社)】

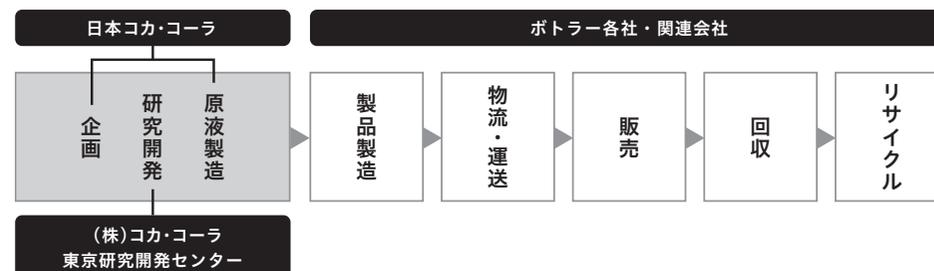
GRN 株式会社、IRM ジャパン株式会社、株式会社ヒスコム
若鶴酒造株式会社、GRN エコサイクル株式会社
日本海調温株式会社
株式会社リラックス、有限会社ウイック

【関係会社】

双爽コーポレーション株式会社、さわやかリテールサポート株式会社



日本のコカ・コーラシステム



日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー会社および関連会社で構成されています。

日本のボトリングパートナー

- ① 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- ② みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
- ③ コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
- ④ 北陸コカ・コーラボトリング株式会社
- ⑤ 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社



数字で見る北陸コカ・コーラグループ



日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティ

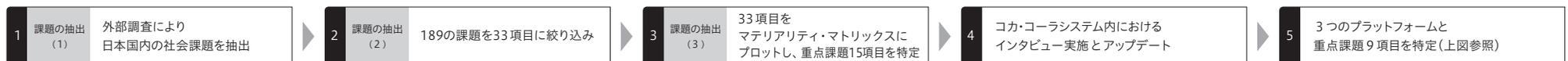
日本コカ・コーラ株式会社と全国5社のボトリング会社などから構成されるコカ・コーラシステムは、「世界中をうるおし、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。」の事業目的ののっとり、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらしながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。2020年には「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の3つのプラットフォームと9つの重点課題を特定し、システム共通のサステナビリティフレームワークを策定しました。各領域において事業活動を通じて社会課題の解決を目指すことで、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成にも貢献してまいります。

日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティフレームワーク (3つのプラットフォームと9つの重点課題)



9つの重点課題はさらに、喫緊の課題とする優先事項5項目と、現時点では優先度は比較的低いが重要と捉える重点事項4項目に分類しています。また、3つのプラットフォームにおける持続可能な開発目標 (SDGs) との関わりを検証し、SDGsの達成も目指します。日本のコカ・コーラシステムは、重点課題をもとに、さらに具体的なアクションを再構築しています。また、日本のコカ・コーラシステムの活動の進捗状況や成果は、引き続きWEBサイトなどを通じて定期的に報告すると同時に、NPO や外部専門機関、有識者など第三者意見を取り入れ、時代に即した活動に取り組みます。

9つの重点課題 (マテリアリティ) 特定プロセス



2021年 サステナビリティー 主な活動のサマリー



多様性の尊重

Inclusion

ダイバーシティ&インクルージョンを推進しています。

- 男性の育児休暇取得率の推進 (2020年実績 0% → 2021年実績 40%)
- CDP 推進
- パートナーに関する就業規則改定
- 自販機外国語表示ステッカー
- 在宅勤務の推進
- 障がい者支援施設(ピアサポートあい)での水分補給講座



地域社会

Communities

事業活動を通して、サステナブルな地域社会づくりに貢献しています。

- 全社一斉美化奉仕活動 (2021年10月9日、全23拠点にて約800人の従業員が参加)
- 地域ボランティア (富山県射水市六渡寺の海岸清掃、「クリーン・ビーチいしかわ」石川県松任市の海岸清掃)
- 出前講座 (水分補給・ものづくり・SDGs 講座)
- SDGs パートナー宣言 (福井県、南砺市、富山県、高岡市)



資源

Resources

限りある資源の持続可能な利用を推進しています。

- ボトル to ボトルの推進、行政・民間との回収スキーム構築 (GRN エコサイクル)
- 水源涵養活動 (北陸コカ・コーラ「うるおいの森づくり」活動、富山県との共催「森と地下水の環境観察会」の開催)
- 砺波工場の取り組み
- 容器リサイクル処理量 (GRN エコサイクル)

	2020年	2021年
缶	891トン	855トン
PET ボトル	3,238トン	3,711トン
その他 (ビン等)	161トン	161トン
中間処理計	4,291トン	4,727トン
再資源化量	3,747トン	4,472トン
PET ボトルリサイクル率	58%	64%

※リサイクル率=リサイクル処理量÷販売重量



多様性の尊重 | Inclusion

ダイバーシティ & インクルージョンを推進



Inclusion
多様性の尊重

Communities
地域社会

Resources
資源

ジェンダー

男性育児休業取得を推進

社内制度を改定し、男女ともにワークもライフも充実できるよう、人事・上司・本人の3者面談の機会を設け、育児休業に際しての弊害要因を取り除き、部署ぐるみで対象者を支援しています。

Comment... 男性育児休業を取得した社員より

- 育児休業取得前は「帰宅が遅くなってもいいや」という気持ちがありましたが、復職後は「1分でも早く帰ろう」と変化が生まれました。
- 赤ちゃんがどんどん大きくなる新生児期をずっと一緒にいられたことで、日々の変化や大変なこと、嬉しいこと、いろんな体験を家族と共有できて嬉しかったです。



企業内家庭教育講座

富山県教育委員会と連携しながら、家庭教育や子どもへの接し方などについて学び、男女問わず仕事と育児の両立を推進しています。

表彰・認定

● 2015年5月27日
次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん」認定



● 2015年10月8日
均等推進企業部門 富山労働局長奨励賞受賞

「女性労働者の能力発揮を促進するための積極的な取組」及び「仕事と育児・介護との両立支援のための取組」が評価されました。

● 2020年11月27日
とやま健康企業宣言 金 (Step 2)

グループ社員の健診結果を毎年独自で分析し、全社員がいつでも閲覧できるよう社内イントラネットに掲載している点、毎年7月1日を「スマイルと帰ろうDAY」とし、社員の健康・安全・快適な職場環境づくりについて、動画でトップメッセージを配信している点が評価され、金 (Step2) 認定を受けました。



右：代表取締役専務 浅野 弘昭

● 2022年3月9日
健康経営優良法人 2022 (大規模法人部門)

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人として評価され、認定を受けました。



年齢 / 世代

CDP (キャリア開発プログラム)

社員が幸せになる会社づくりのため上長がメンターとなり、個人のキャリア形成希望と会社の希望の擦り合わせを面談を通して実施し、社員のキャリア形成支援を行っています。

エイジ研修

25歳・35歳の同世代がキャリアデザインやロジカルシンキングなどの研修を通じ、今後の自身の幸せと会社の成功を考え、主体性をもってより良いパフォーマンスを発揮できるよう実施しています。



外国人留学生の採用

外国人留学生の多様な習慣・考え方、仕事への積極的な取り組み方、自己の能力を高めるための前向きな姿勢などを取り入れ、人と会社を成長させるべく、外国人留学生の採用を行っています。

障がい者支援

全肢連への支援

コカ・コーラシステムは、1980年より一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会(全肢連)を支援しています。

全国各地の学校や公民館などに、全肢連のステッカー付き自動販売機(全肢連管理)を設置し、その売上金の一部を全肢連・県肢連の活動費に充てています。

障がい者支援施設での出張講義

富山県南砺市を拠点に、障がい者の方々の方々の自立生活を支援している社会福祉法人マーシ園 ピアサポートあい、水分補給セミナーの出張講座を実施しました。



LGBTQ

就業規則や福利厚生制度を改定

(2021年5月20日施行)

賃金や休暇制度の取り扱いについて、戸籍上の配偶者に限らず、事実婚・同性婚のパートナーも配偶者と同等に扱うこととしました。

【就業規則改訂の一例】

旧 次の各号のひとつに該当し、休暇を申請したときは、特別休暇を与える。
介在する休日は、休暇日数に算入しない。
(配偶者についての定義の記載はなし)

新 次の各号のひとつに該当し、休暇を申請したときは、特別休暇を与える。
介在する休日は、休暇日数に算入しない。なお、本条における配偶者とは、戸籍上の配偶者に限らず、配偶者に相当する事実婚・同性婚を含むものとし、本条以外の就業規則および社内規定においても同様の取り扱いとする。

現在、PRIDE 指標の認定を受けるべく、取り組んでいます。



地域社会

Communities

サステナブルな地域社会づくりに貢献



Inclusion
多様性の尊重

Communities
地域社会

Resources
資源

災害協定

本業を通じた社会貢献として、災害時における飲料提供協力などに関する自治体との協定をもとに災害支援型自動販売機の設置を進めています。

災害発生時には手動のみならず、遠隔操作でも自動販売機内の飲料を無料で取り出すことが可能になります。

また、災害情報や避難情報などをいち早く自動販売機上部の電光掲示板に表示することが可能で、自動販売機ならではの機能を活用した支援を行っています。



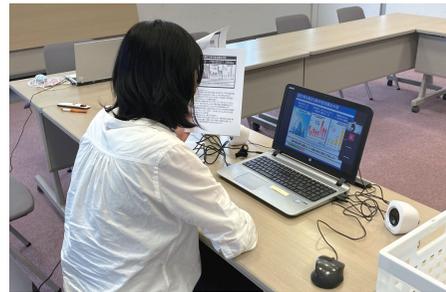
[災害協定締結状況]

協定締結自治体数	設置台数	
長野県	38	121
富山県	17	136
石川県	22	180
福井県	7	37
合計	84	474

2021.12.31 現在

水分補給セミナー

正しい水分補給の方法や熱中症のメカニズムをお伝えし、熱中症予防に役立てていただくために、お取引企業を中心に水分補給セミナーを開催しております。お取引企業に限らず、学校、施設、スポーツクラブ、障がい者支援施設などにも出張し、地域の皆さまの健康づくりのサポートを進めています。また、オンラインでの講座も開催しています。



地域スポーツチームへの支援

スポーツシーンのトップに位置する地域スポーツチーム(サッカー・野球・バスケットボール・バレーボール等)への応援を通じて、地域へ感動や希望、笑顔を届ける活動を行っています。各スポーツチームへは、コカ・コーラ製品を通じてさわやかさと、活力・希望を提供し、支援機能付き自動販売機の売り上げの一部を、チームの活動資金として寄付しています。



長野県立こども病院支援自販機(信州)

長野県内唯一の小児専門病院である長野県立こども病院は2015年度から高度専門医療や人材育成の事業支援のためにこども病院寄付プログラムを開始しました。

当社はその主旨に賛同し、2017年4月に長野県立こども病院にはじめて支援自販機を設置し、2022年3月末現在は24社49台まで展開しています。寄付金は未来ある子どもたちの療養環境の整備に役立てていただいています。



[支援金額実績]

	支援金額
2017年度	196,457円
2018年度	536,353円
2019年度	520,521円
2020年度	444,496円
2021年度	510,245円
合計	2,208,072円

うるおいの森づくり

昭和 37 年の創業以来、ふるさとの豊かで良質な地下水の恩恵を受け、清涼飲料の製造・販売を行っています。

この豊かな水の恩恵に感謝し、次世代に確実に残していかなければならないと考え、平成 17 年から庄川水系の山間で植林活動を実施し、今年で 18 年目の活動となります。

下草刈り
活動動画▶



[うるおいの森 活動実績]

延べ参加者数	5,216 人
植林面積	7.72ha
植林本数	14,681 本

2021.12.31 現在

清掃ボランティア活動

社員一斉美化奉仕活動

1979 年より、地域社会への貢献と環境美化意識の向上を目的とし、毎年グループ社員約 1,200 名が一斉に参加して主要道路や公園、海岸、河川敷など約 23 ヶ所の清掃活動を実施しています。

各地に広がる清掃活動の輪

地域の皆さんと連携し、各事業所でも継続的に取り組んでいます。

- 富山県では六渡寺自治会や地元ボランティアグループ「六友会」とともに、射水市の六渡寺海岸での海岸清掃に社員有志で参加しています。
- 石川県では石川の海岸線をきれいにする海岸愛護運動「クリーン・ビーチいしかわ」の活動に参加しています。
- 長野県では、諏訪湖アダプト・プログラムに参加し、諏訪湖岸や、道路沿いの除草・清掃作業に参加しています。



◀ごみ拾いSNS「ピリカ」。清掃活動のタイムリーな閲覧が可能に。

学校への出前授業

富山県中学生ものづくり事業

富山県のものづくり人材の育成を目指し、県内の中学生に「学ぶおもしろさ」、「学びへの挑戦」を体験してもらう事業に北陸コカ・コーラも参加しています。少子化や「理科離れ」が課題となる中、昨年度は富山県内の中学校 16 校で 772 人の、将来の進路を意識し始める中学生に、講師の体験談を交えたものづくりの楽しさや働く意義を伝えました。

SDGs 講座の実施

富山県砺波市立出町中学校、小矢部市立石動小学校、福井県鯖江市立東陽中学校で、北陸コカ・コーラにおける SDGs の取り組みを「SDGs 講座」として実施しました。PET ボトルは正しい分別・処理をすれば資源になるということの理解を深めてもらうため、コカ・コーラシステムの「容器の 2030 年ビジョン」をもとにした動画や独自に取り組んでいる事例を交えて説明しました。



SDGs 自販機 (富山県富山市、南砺市、砺波市)

2021年フードロス削減を目的とした「SDGs 自動販売機」を富山市、砺波市、南砺市と協同し、設置しました。全国の自治体では初めての取り組みです。本自動販売機にセットする製品の一部は、在庫の偏りにより生じた余剰分を活用しています。また、売り上げの一部は各自治体へ寄付され、SDGsの取り組みに活用されます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



南砺市オリジナルさらを模したSDGsマークが施された自動販売機の前で記念撮影をする井辻社長、稲垣会長、田中 幹夫南砺市長

SDGs に関する包括連携協定 (富山県砺波市、南砺市)

2021年に砺波市、南砺市と北陸コカ・コーラグループおよびGRNグループは、「SDGs 包括連携協定」を締結しました。

北陸コカ・コーラグループ、GRNグループ、両市は、それぞれが持つ資源を有効活用し、持続可能な社会の実現と、新たなビジネスチャンスを広げて参ります。



SDGs パートナー宣言

- 2021年2月/福井県と「ふくい SDGs パートナー」宣言。
- 2021年4月/南砺市へ「なんと SDGs パートナー」登録。
- 2021年8月/富山県と「富山県 SDGs 宣言」。「TOYAMA SDGs PROJECT」に。
- 2022年4月/高岡市と「たかおか SDGs」宣言。

当社のSDGsの取り組みを、富山県や南砺市の専用サイトなどで広く発信することにより、県内外様々なステークホルダーの連携を促進することが狙いです。

また、当社SDGs宣言に掲げられた具体的な取り組みを進めることにより、SDGsの達成と合わせて、地域社会の成長や当社の成長・発展戦略につながることを期待します。



地元の子ども達との交流イベント in 北陸コカ・コーラ さわやかパーク

砺波工場近隣園児による チューリップのお絵描きイベント実施

砺波工場近くの東般若保育園 年長児さんが昨秋植え付けたチューリップ



の球根がきれいな花を咲かせ、その花を描くイベントを2022年4月19日・21日に実施しました。計39名が園外活動として遊びに来て、かわいいチューリップを描いてくれました。

砺波工場近隣小学生による桜の記念植樹



2022年6月10日、地元の豊かな自然に感謝し、次世代につなぐ学

びのきっかけにしておうと、砺波工場近くの砺波市立庄東小学校6年生39名とともに、創業60周年を記念した桜の木の植樹を行いました。

公益財団法人 稲垣小太郎記念奨学財団

2005年3月1日に創設者である稲垣 小太郎の30回忌を記念して設立した当財団では、青少年の向学の志にできる限りの援助の手をさしのべ、富山県の教育振興と地域社会にお役に立てればと考え、これまでに104名の富山県内高等学校出身の学生に奨学援助を行っています。



公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団奨学金

心豊かでたくましい人づくり (Healthy Active Life) を理念とし、環境教育、教育支援を柱として、次世代を担う青少年の育成を通じ、豊かな社会の形成を目指しています。このうち、奨学支援では、大学在籍中の支援を行い、これまでに204名の卒業生(当社エリア)を送り出しています。2021年度からは環境、特に地球・環境資源関連領域に関して、より専門的な研究を行う大学生の大学院進学も対象となりました。



い・ろ・は・す「水源保全プロジェクト」

「い・ろ・は・す」の全国6ヶ所の採水地をはじめとした全国23ヶ所の水源保全などの活動を行う団体に、公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団を通じて、「い・ろ・は・す」の売上の一部を寄付し、水資源の保護活動を支援しています。

[2021年度 寄付金額]

	団体名	寄付金額
富山県	富山県(農林水産部森林政策課)	93,685円
石川県	公益財団法人石川県緑化推進委員会	105,395円
福井県	公益社団法人福井県緑化推進委員会	66,360円
長野県	長野県(林務部森林政策課)	124,913円
合計		390,353円



長野県庁での贈呈式



資源 Resources

資源の持続可能な利用を推進



Inclusion
多様性の尊重

Communities
地域社会

Resources
資源

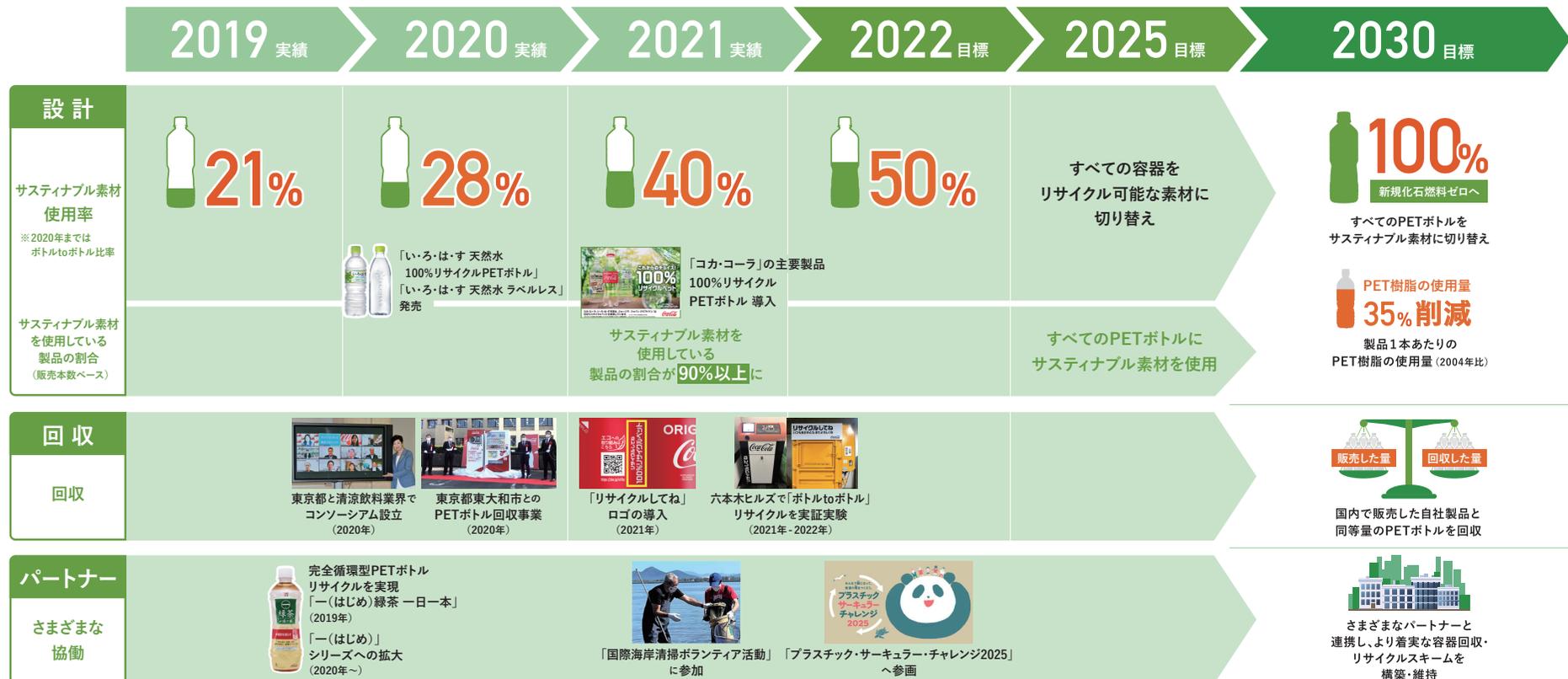


容器の2030年ビジョン

日本のコカ・コーラシステムは、グローバルビジョン「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」に基づき「設計」「回収」「パートナー」の3つの柱からなる活動に取り組み、容器由来の廃棄物削減と、日本国内におけるプラスチック資源の循環利用の促進に貢献しています。「ボトル to ボトル (水平リサイクル)」「ラベルレス・パッケージレス」「容器の軽量化」を推進し、2025年までにすべてのPETボトル製品にサステイナブル素材※を使用し、2030年までにすべてのPETボトルを100% サステイナブル素材へ切り替えることなどを目指しています。

※サステイナブル素材：ボトル to ボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

日本のコカ・コーラシステム「容器の2030年ビジョン」(ロードマップ/実績)



容器の 2030 年ビジョン

1. 設計

「ボトル to ボトル (水平リサイクル)」の推進により、100% リサイクル PET ボトルの導入を拡大

日本のコカ・コーラシステムでは 2018 年 1 月に発表した「容器の 2030 年ビジョン」に基づき、2025 年までにすべての PET ボトル製品にサステナブル素材を使用し、2030 年までにすべての PET ボトルを 100% サステナブル素材へ切り替えることなどを目指しています。2021 年 5 月には「コカ・コーラ」などの旗艦製品へ 100% リサイクル PET ボトルを導入したことなどが寄与し、コカ・コーラシステム全体の国内の清涼飲料事業における PET ボトル容器のサステナブル素材使用率は 40% に到達しています。現在※1、国内で販売する 5 ブランド（「コカ・コーラ」「ジョージア」「い・ろ・は・す」「ー（はじめ）」「ボナクア」）37 製品に 100% リサイクル PET ボトルを使用しています。また国内で販売している 90% 以上の PET ボトル製品※2に、サステナブル素材が一部または全部使用されています。コカ・コーラシステムは引き続き、「ボトル to ボトル (水平リサイクル)」の推進などによる 100% リサイクル PET ボトルのラインナップ拡大と、容器由来の廃棄物削減を通じ、プラスチック循環型社会の実現に貢献します。

※1 2022 年 2 月時点 ※2 販売本数ベース



「リサイクルしてね」ロゴを約50%の製品に導入

コカ・コーラシステムではプラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として、2021年より、すべてのリサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴの導入を進めています。2022年2月時点で販売中の製品の約50%に「リサイクルしてね」ロゴの導入を完了し、さらに順次拡大中です。「リサイクルしてね」ロゴは、製品パッケージのみならず、広告物やPOP、リサイクルボックス等にも使用し、消費者のみなさまへのコミュニケーションを強化しています。



リサイクルしてね
100%リサイクルペット



容器の 2030 年ビジョン

1. 設計

ラベルレスを強化、容器の軽量化を促進

ラベルレス

「ラベルレス製品^{※1}」は、製品容器からラベルをなくすことにより、プラスチック使用量を削減するとともに、ラベルをはがす手間をなくし、リサイクルのための分別を楽に行えるようにした製品です。コカ・コーラシステムでは、2020年4月に初のラベルレス製品「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」を発売。その後ラインナップを拡充し、2022年4月には、「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」100%リサイクルPETボトル350mlを、新ラベルレスボトルでオンライン限定発売しました。現在^{※2}、ラベルレス製品は8ブランド18製品に拡大しています。

新ラベルレスボトル登場!



100%リサイクルPET
新ラベルレスボトルは100%リサイクルPETを使用しています。

※1 2020年4月、経済産業省において「資源有効利用促進法」に基づく識別表示に関する制度の変更が実施されたことにより、すべての流通段階において外装のある販売単位により最終消費者に販売されるものに限り、ラベルによる識別マークの表示を省略することが可能となりました（オンライン通販等でのケース単位の販売を想定）。

※2 2022年2月時点

100%リサイクルPET素材を使った新デザインの「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」の発売は日本市場が初となります。

容器の軽量化

日本のコカ・コーラシステムは1980年代より、缶やPETボトルをはじめとした容器の軽量化による省資源化に取り組んでいます[※]。1983年に41gだったコーヒー缶（内容量185gサイズ）は現在9.7gに、また1996年に発売されたミネラルウォーターのPETボトル（内容量555mlサイズ）は、2009年に当時国内最軽量の12gまで軽量化されています。2021年には従来42gだった「コカ・コーラ」の700mlPETボトルを27gへと軽量化しました。これらの取り組みを通じ、容器1本あたりのPET樹脂使用量を2021年時点で約30%（2004年比）削減しています。

引き続き、内容物の保護やお客様の扱いやすさといった容器としての性能を維持向上しつつ、使用する資源量の削減に取り組めます。

42g

2020年



27g

2021年



コカ・コーラTM 700mlPET



2. 回収

PET ボトルの回収から粉碎（フレーク化）までをグループ会社で内製化



GRN エコサイクル株式会社（石川県白山市）

飲料を扱う企業責任として、2002 年よりグループ会社の GRN エコサイクル株式会社で容器のリサイクル事業を発足し、回収した空容器の分別・圧縮・再資源化を 20 年にわたり行っています。北陸エリアでは数少ない PET ボトルの粉碎（フレーク化）までを行う中間処理施設となっており、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会の PET ボトル再商品化事業者として認可されています。

リサイクルの流れ

回収・保管

当社事業所からだけでなく、行政からも缶・PET ボトルの回収を行っています。

選別・圧縮

回収された空缶・PET ボトルおよび空びんを種類ごとに分別。缶・PET ボトルは圧縮します。

粉碎・洗浄

事業系・行政系の梱包およびバラの PET ボトルは再度選別され、粉碎（フレーク化）、ラベル剥離、キャップ分離、洗浄し、再生事業者へ搬入されます。

再商品化

資源として処理された加工品は、素材ごとに再商品化利用事業者へ渡され、新しく生まれ変わります。



PET ボトルフレーク



たまご梱包パック



プリフォーム (PET ボトルの原型)



ノベルティグッズ

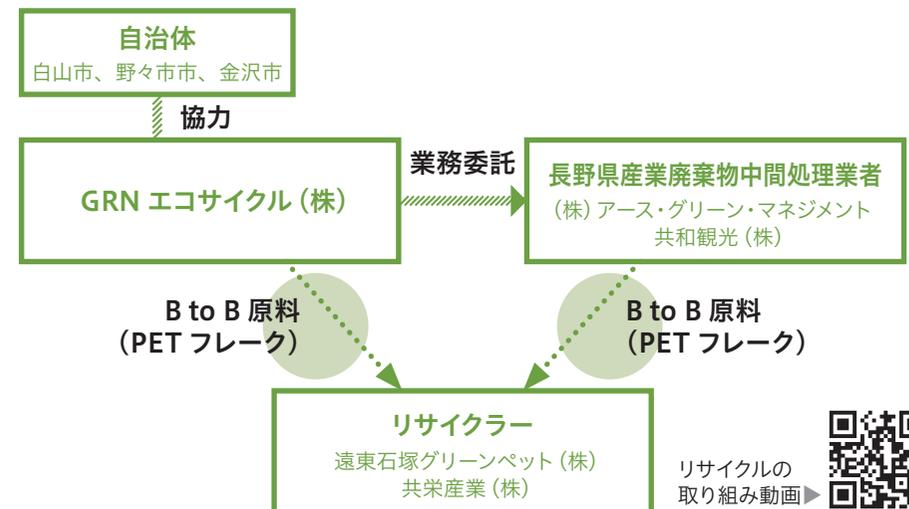
3. パートナー

B to B を促進し、水平リサイクルの実現へ

「容器の 2030 年ビジョン」達成に向けて、BtoB 促進に取り組んでいます。GRN エコサイクル株式会社が直接回収した PET ボトルだけでなく、地元自治体と協力し、家庭から排出された PET ボトルも再資源化しています。また、長野県の産業廃棄物中間処理業者と連携・業務委託をし、安定的なリサイクル PET ボトル原料の供給を進めています。

[業務委託の背景]

BtoB 原料を買い集めるのではなく、可能な限り地元でリサイクル（再資源化）を行うことで、持続可能なリサイクルシステム構築に繋がると考えています。



北陸コカ・コーラプロダクツ(株) 砺波工場

品質・食品安全

豊かな自然に抱かれた砺波工場では、大型・小型兼用無菌ライン、缶ライン、PETライン、ガラスびんラインの計5ラインを備え、80種類以上の製品を製造できる体制を整えています。原材料の納入から製品出荷まで、すべての製造工程において、製品の品質と安全性を守るために、厳しく定めた独自の品質管理を行っています。

また、砺波工場は、品質マネジメントシステムの規格「ISO9001」、環境マネジメントシステムの規格「ISO14001」および食品安全システムの規格「FSSC22000」や労働安全衛生マネジメントシステムの規格「ISO45001」の認証を受けています。



工場での太陽光発電

オリックス株式会社に屋根を貸し出し、4,922坪に15,810枚(最大出力1,502kW)の太陽光パネルを設置し、同社の太陽光発電事業に協力しています。

発電した電力は、「再生可能エネルギー特別措置法」に基づき、北陸電力へ売電しています。広大な工場の屋根を活用してクリーンエネルギー創出に協力することで、地球に配慮した工場となり、地域社会へさらに貢献することを目指しています。



ゼロ・エミッションに向けての取り組み

大気や地下水など、周辺の環境にあたる環境負荷低減および温室効果ガス(CO₂)削減のため、工場の燃料は大気を汚染する物質が少ないLPガスを使用しています。

また、工場内の省エネにも努め、廃棄物排出ゼロに向けて積極的に取り組んでいます。

厳密な衛生管理

製品の製造工程で菌の混入を防ぐ無菌充填設備の導入をはじめ、製造ラインや使用器具の定期的な洗浄・殺菌はもちろん、工場で働く従業員の健康状態もチェックするなど、すべてにおいて衛生管理を徹底し、常に清潔な状態が保たれています。

エレクトロン・ビーム殺菌

砺波工場では、洗浄水と薬剤を使わずエレクトロン・ビーム(電子線)でPETボトルの殺菌を行う製造ラインを2011年に全世界のコカ・コーラ工場ですべて導入し、水の使用量を大幅に削減することに成功しました。



水資源管理の推進

庄川水系の良質な地下水に恵まれた砺波工場では、工場での製造工程における水の使用量の管理を徹底しています。製品殺菌工程で使用した温水を冷却し再利用する「冷却水節水システム」を導入し、水使用を少なくした生産ラインの導入など水使用量の削減に積極的に取り組んでいます。

利用された水は最終的に排出処理設備を通し、微生物を使う「活性汚泥法」で処理され、環境への負荷が少ない方法で河川に放流します。その際の水質については、水質汚濁防止法や条例を遵守することはもちろん、排水量を削減し、よりきれいな水を自然に還せるよう努めています。

高品質の水づくり

水は私たちコカ・コーラの命の源。コカ・コーラシステムの水質に関する基準は、世界保健機関 (WHO) の分析項目ならびに分析値を取り入れています。砺波工場でも、ザ コカ・コーラカンパニーが世界共通で定めている基準と日本国内の水道法や水質基準と照らし合わせて、より厳しい基準値を採用しています。

自ら課した厳しい基準値のもと、多様な工程を経て高品質の水につくり替える。この厳しい水処理工程を私たちは「水をみがく」と呼んでいます。

2022年7月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため工場見学を中止しています。製造ラインについての動画はこちらからご覧ください。▶



北陸コカ・コーラ さわやかパーク

砺波工場の隣にある北陸コカ・コーラ さわやかパークは、北陸コカ・コーラ ボトリング株式会社創立 50 周年を記念してつくられた“緑あふれる憩いの公園”です。季節に合った色とりどりのお花を楽しむことができる、地域の皆さんに親しまれる公園を目指しています。

Data.

富山県砺波市東保 1202-1

[利用時間 / 9:00 ~ 18:00]

※ 11月~3月は 17:00 まで

専用駐車場有り

●開園時間帯は常時駐車できます
(予約不要)



全国みどりの工場大賞
National Award for Greenery Factory

一般財団法人日本緑化センターが主催する緑化優良工場等表彰(愛称:全国みどりの工場大賞)において、「日本緑化センター会長賞」を受賞しています。



日本のお客様の多様なニーズに応える製品ポートフォリオ

コカ・コーラシステムの事業活動は、「いつでも、どこでも、誰にでも」おいしい飲料をお客様にお届けしたいという願いとともに世界に広がり、その願いは「コカ・コーラ」の誕生から136年経過した今も受け継がれています。

日本のコカ・コーラシステムは、炭酸飲料をはじめ、茶系飲料、スポーツ飲料、水など幅広いカテゴリーにおいて、お客様のライフスタイルや嗜好に寄り添った製品を展開しています。



※北陸コカ・コーラボトリングの製品ポートフォリオ。2021年12月数量ベース。北陸コカ・コーラ調べ。

『健康』に着目したトクホ・機能性表示食品

『健康』に対する、日本のお客様の高い意識やニーズを反映し、コカ・コーラシステムではトクホ(特定保健用食品)や機能性表示食品のラインナップを強化しています。2017年には、食事から摂取した脂肪の吸収を抑えて食後の血中中性脂肪の上昇をおだやかにするトクホ製品「コカ・コーラプラス」を、2021年には、記憶力と血圧にはたらくGABAを機能性関与成分として配合した機能性表示食品「からだおだやか茶W」を発売しました。日本のコカ・コーラシステムでは現在、トクホ3製品、機能性表示食品3製品を展開しています。



適正飲酒のための取り組み

日本コカ・コーラは、適正飲酒の啓発のために、責任を持って自社アルコールブランドのマーケティング活動を行っています。企業ホームページ (<https://www.cocacola.co.jp/sustainability/proper-drinking>) での適正飲酒啓発やお酒と健康に関する情報発信など、アルコールの有害な使用の低減および防止に向けて、お客様に適切な情報を提供するように努めています。

【アルコールの責任に関する具体的な方針】

- 責任あるアルコールマーケティングに関するポリシー
- ローカルパートナーシップとコミュニケーションプログラム
- 情報と透明性
- 従業員の責任ある行動

60年のあゆみ

北陸コカ・コーラボトリング株式会社 沿革

- 1962 ● 北陸飲料株式会社設立
- 1963 ● 北陸コカ・コーラボトリング株式会社に商号変更
高岡工場新設
- 1964 ● 本社を富山県高岡市内島 3550 番地に移転
- 1970 ● 石川県松任市 (現 白山市) に石川工場新設
- 1975 ● 福井県武生市 (現 越前市) に武生工場新設
「ジョージア」缶コーヒー発売
- 1984 ● 長野コカ・コーラボトリング株式会社の経営権取得
- 1998 ● 富山県砺波市に砺波工場新設
- 1999 ● 長野コカ・コーラボトリング株式会社と合併
- 2002 ● 石川リサイクルセンター新設
- 2003 ● 砺波工場に無菌充填 PET 製造ラインを新設
本社社屋増改築工事竣工
情報システム部門を分社し、株式会社ヒスコム設立
物流部門を分社し、北陸ロジスティクス株式会社設立
製造部門を分社し、北陸コカ・コーラプロダクツ株式会社設立
- 2004 ● 販売機器メンテナンス QC 部門を分社し、北陸マシンテクノサービス株式会社設立
飲料容器リサイクル部門を分社し、株式会社北陸リサイクルセンター設立
北陸長野キャンティーン株式会社から株式会社ベネフレックスに商号変更
- 2009 ● 砺波工場に無菌充填大型 PET 製造ラインを増設
「い・ろ・は・す」天然水ボトリング開始
- 2011 ● 砺波工場に EB 無菌充填 PET 製造ライン新設
- 2012 ● 創立 50 周年記念事業「さわやかパーク」造成
- 2015 ● GRN ホールディングス株式会社 (現 GRN 株式会社) を新設分割により設立
- 2019 ● 砺波工場に新無菌充填 NAT 製造ラインを新設
- 2021 ● 砺波工場にてレモンサワー「檸檬堂」の生産を開始

▼詳細はこちら



当社の活動は
 ホームページからも
 ご覧いただけます



▶▶ <https://www.hokuriku.ccbc>



アンケートに
 ご協力を
 お願いします



サステナビリティレポートをご覧くださいありがとうございます。内容について、皆さまのご意見をお聞かせください。当社の今後の活動に役立てて参ります。



北陸コカ・コーラボトリング株式会社
 COPYRIGHT© Hokuriku Coca-Cola Bottling Co.,Ltd.